

給食と玩具が 削られる

ルポ 保育園 株式会社 職業としての保育2

連載……第4回



小林美希

こばやし・みき 一九七五年、茨城県生まれ。『エコノミスト』編集部を経て二〇〇七年よりフリーのジャーナリスト。著書に『ルポ正社員になりたい』（二〇〇七年、影書房）、二〇〇七年日本労働ベントクラブ賞、『ルポ 正社員』の若者たち』（二〇〇八年、岩波書店）、『ルポ 職場流産』（二〇一一年、岩波書店）、『ルポ 産ませない社会』（二〇一三年、河出書房新社）、『ルポ 保育崩壊』（二〇一五年、岩波新書）、『ルポ母子家庭』（二〇一五年、ちくま新書）、『ルポ 保育格差』（二〇〇八年、岩波書店）など。

世界 SEKAI 2019.12

傷んだ食材が届く調理室

「現場ではコスト削減が求められ、業者は見切り品のような食材を持ってきた」

ある大手株式会社の子会社の運営する保育所。給食材料費を調べると、平均より高めの金額になっている。だが、調理室で働いていた牧野由美さん（仮名）は首をかしげた。

真空パックの肉や魚の切り身が黒ずんでいた、キャベツを切ったら中で花が咲いていた、トウモロコシの皮をむいたら茶色くなって乾燥していた、肉が脂身だらけだった——大量発注のせいも検品が不十分で「こんなの気持ち悪くて使えない」という食材が届いたことは、数えあげればきりが無い。メニューは統一されていて、現場が決められた業者に食材を発注。支払い業務は本社が行っていた。

本社からはコスト削減を求められ、同じ種類の食材を買うなら当然、値段の安いところ。野菜の価格が高騰すればメニューや食材が変更され、各保育園にいつせいに連絡がくる。魚は価格が高いので、使う場合は、馴染みのない名前の深海魚や巨大魚であることが多く、それを由美さんは、保護者に「タンパク質が多い」と紹介した。

ゼリーやヨーグルトなど少し単価の高い既製品が使われることもあったが、いま思えば、伝票に記載されていた金額が高かった気がする。自治体に提出している栄養管理報告書に

は一人当たりの食材単価を記載するが、この園の昼食とおやつ
の材料費は一日一人当たり約四〇〇円で、一般的な金額だ
ったという。

由美さんは勤めていた頃、伝票を見ては「傷んでいるもの
ばかりで見るからに安そうな食材なのに、なぜ高いのだろ
う」と素朴な疑問を感じていた。

実は、この会社は調理部門と保育運営会社が別会社になっ
ている。実際の食材は安く仕入れる。支払いは調理部門会社
が行ない、実際の金額より高く費用計上して保育所運営会社
に請求。保育所の財務情報には高く払った金額が計上される。
差額は調理会社の利益になり、グループ会社間で売り上げを
立て、利益にするための費用計上が行なわれている——。こ
う仮定すると説明がつくが、会社側は取材を拒んだ。

他の株式会社の保育所では、毎朝、登園した園児数を時間
通りに給食室に知らせ、人数分びったりしか給食を作らない。
まだ上手にスプーンなどを使って食べるのできない一〜
二歳の子がこぼしてしまっても、おかわり分もないため保育
士は「ごめんね。こぼしたら、もう食べるものないんだ」と
言うしかない。

ある保育関係者は、「昼食が一食二二〇円という園もあ
る」という。食材の予算をたった一〇円上げるのにも、本社
でプレゼンをしないと通らないという。徹底的な食材費のコ
ストカットが行なわれているのだ。

ただし、手作りおやつにすると食材費はかからないが、店
でケーキを買ってきたりすればすぐに跳ね上がる。給食の質
を食材費の値段の高低だけでは判断できない面もあるが、や
はり無視はできない。

給食食材費はいくらかけられているか

一〇月から幼児教育・保育の無償化が始まった。ところが
三歳児以上の保育料が無償となる代わりに、おかずの副食費
が実費徴収されるようになった。給食費については保護者や
自治体の関心も高まっているだろう。

〇〜二歳児は公定価格にご飯やパン類の主食費と副食費が
含まれ、三歳児以上の場合には公定価格に副食費だけが含まれ
ていて、主食費は米代が実費徴収されるか各家庭からご飯を
持参してきた。無償化が始まると、まるで財政の帳尻合わせ
のように三歳児以上の副食費の実費徴収が決まった。

東京都では千代田区や中野区などが保護者負担分を区が全
て負担することになり副食費も無償化となった。一方で、稲
城市は当初、「国が示している主食費三〇〇〇円と副食費四
五〇〇円の合計で月額七五〇〇円」で徴収しようとしたが、
保護者からの要望があり月額六〇〇〇円になった。住む自治
体によって差が生じており、まだまだ混乱状態だ。

そうしたなか、便乗値上げを図った事業者も散見される。
ある社会福祉法人の保育所では、実費徴収が方向づけられる